

福山・笠岡地域公共交通活性化協議会 第1回福山地域部会 会議録（要旨）

1 日 時

2016年（平成28年）11月18日（金）10:00～11:30

2 場 所

福山市役所 6階 60会議室

3 出席者

(1) 委員（18名）

渡邊寛人委員，渡辺徹委員，神原昌弘委員，吉本伸久委員，加藤勇樹委員（代理 木山政紀），岡森正人委員，山田進一委員，堀江豊委員，中本俊幸委員，後藤宏暢委員，和田秀俊委員（代理 宮重透），藤井智恵子委員，藤井孝紀委員，渡邊一成委員，茅原裕則委員，藤井基博委員，山脇敬治委員，岡本浩男委員

(2) 事務局（4名）

神田部長，神園都市交通課長，中津公共交通担当次長，上田主事

(3) 傍聴者（0名）

4 会議の成立

委員20名中，代理出席を含め18名出席で，委員の過半数が出席しているため，福山・笠岡地域公共交通活性化協議会規約第7条第2項の規定により会議が成立

5 協議事項

(1) 報告事項

①福山・笠岡地域公共交通活性化協議会 福山地域部会の設置等について

②福山・笠岡地域公共交通網形成計画作成に係るこれまでの取組経過及び今後のスケジュール等について

(2) 議事

①福山地域の公共交通の現状・課題と計画策定の方向性について

6 資料

- ・次第
- ・出席者名簿
- ・配席図
- ・第1回福山・笠岡地域公共交通活性化協議会 福山地域部会 会議資料（報告事項）
- ・福山・笠岡地域公共交通網形成計画の位置付け及び地域現況整理（資料－1）
- ・生活交通に関するニーズ把握調査の結果 結果概要（資料－2）
- ・生活交通に関する事業者意見把握結果 結果概要（資料－3）
- ・路線バス利用状況に関する分析（資料－4）
- ・地域公共交通網形成の課題と基本方針（資料－5）

7 協議内容

(1) 部会長挨拶

福山市に参りまして3年目となりました。それまでは東京にいましたが，地方都市での暮ら

しは初めてです。福山市には人口が密集した市街地があり、また住宅地があり、そして農地が広がる田園風景があり、更には人口が減ってきている中山間地域や島があります。福山市は、まさに日本の縮図なのではないかと思っております。そういった地域で公共交通を考えるというのは非常に重要な問題だと思っております。

公共交通というと、人口が多いところで議論されていることから、大量輸送が中心の議論が多いのですが、そのような中、人口が少ない地域あるいは島といったところの公共交通をこれからどのように活性化させていくのかということは、重要な問題だと思っております。

そういった意味で、是非とも皆さんにいろいろな状況を教えていただきながら、会を進めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

(2) 報告事項

①福山・笠岡地域公共交通活性化協議会 福山地域部会の設置等について

事務局：資料により説明。

(質問・意見なし)

②福山・笠岡地域公共交通網形成計画作成に係るこれまでの取組経過及び今後のスケジュール等について

事務局：資料により説明。

(質問・意見なし)

(3) 議事

①福山地域の公共交通の現状・課題と計画策定の方向性について

事務局：資料により説明。

委員：資料－１の29ページ「路線バス利用者数の推移」において、利用者が減少傾向あるいは横ばいということで、資料の中でも一部、その要因についてご説明がありましたが、それ以外に福山市の方で特筆すべきものがあれば参考に教えていただきたいと思います。

また、資料－５の10ページに「【取組の方向性3】公共交通空白地域の拡大を抑制する」ということで、資料－１の21ページに「公共交通体系（陸上交通）のカバーエリア」のお示しはありますが、今後、具体的に進める際には、具体の地域等についてご明示があると思っております。どうぞよろしくお願いたします。

事務局：路線バスの利用者数については減少傾向にありますが、このところ、どちらかというところと持ち直しているという感覚を持っております。2006年（平成18年）にバスの利用促進計画を立て取り組んでおりますので、そういったことがどこまで影響しているかはわかりませんが、結果として出てきているのではないかと思っております。

2点目につきましては、これから具体的にしたいと思います。

部会長：先ほどの質問とほぼ一緒ですが、資料－１の21ページに「公共交通体系（陸上交通）のカバーエリア」が示されていますが、だいたい人口の何割くらいカバーできているのでしょうか。ざっくり見ますとほぼカバーされていると思う一方、人口が張り付いていながら圏域から外れているところがあります。状況についてコメントしていただければ幸いです。

事務局：人口のどの程度をカバーできているのかというのは、申し訳ございませんが、データ

を持っていません。しかし、ほとんどの地域でカバーされていると思います。高齢者のお出かけ支援事業をしている地域もございます。

ただそうは言ってもバス停から半径500m圏内でカバーしたことになるのか、高齢者が500m歩くことができるのかということもありますので、そこはいろいろと考えていかなければならないと思っております。また、特に団地等バス路線がない地域があり、坂があるところもありますので、そういったところも考えていく必要があると思っております。

部会長：ありがとうございます。これは私の個人的な興味・関心の話ですが、この資料－1の21ページの図のように、例えば高齢の女性だけをメッシュデータでプロットして、そこに公共交通のカバー状況を見るとか、そういうことをすると面白いと思えます。この資料の前半で非常に興味深いデータとして示されている、1人暮らしのおばあさんが非常に多く、なおかつ車の免許を持たない、そういう方のフォローをどうしていくのかというのは非常に重要だと思いますので、それが資料として見ると良いと思った次第です。これは余談ですので構いません。

私からバス事業者に教えていただきたいことがあります。資料－3の4ページに「乗務員の不足」が課題としてあげられていますが、現在の定年制度や再雇用がどのようになっているのか、取組の状況を教えていただけると幸いです。

委員：定年につきましては、現在、60歳定年としております。ただ国の方針もありまして、基本65歳までは、本人が希望すれば継続して勤めることができる環境にあります。70歳までは本人の希望や健康状態等を勘案しながら勤務ができます。しかし、それだけの高齢になりますと、毎日勤められないとか、年金の関係もあり月の半分しか勤めたくないとかいろいろな条件があります。

部会長：ありがとうございます。他はいかがでしょう。

資料－5に関係しますが、現在、福山では立地適正化計画という、いわゆるコンパクトシティを目指すという取組をされており、もうすぐ基本方針ができると思っておりますが、その計画でも言われているのが公共交通との関連をどう考えるのかということです。

この網形成計画を考える時にも土地の使い方、どこにどのような施設を立地させるのかといったことが重要な問題であると思えます。その立地適正化計画とこの網形成計画の関連をどのように考えていくのかということがひとつのポイントであると思えます。

もうひとつは個人的な考えですが、非常に車利用の方が多くて、生活習慣病になっているのではないかと考えています。どこに行くにも、100m先に行くにも車に乗ってしまうので、まずその生活習慣病を脱却してもらう必要があると思えます。そのためにはモビリティ・マネジメントのような取組は重要だと思っています。例えば、社会実験を実施して、車利用を少し見直してもらうとか、そういった取組に踏み込めないかと思っています。そういったことについて、計画の中でするのか、それとももっと先の話として取り組むのか、お考えについてお願いいたします。

事務局：立地適正化計画については、昨年度から取組を始めております。今年度末に基本方針を策定する予定で検討しているところです。もともと2008年（平成20年）の都市マスタープランで、コンパクトシティを目指していくという考え方を示しています。これは福山駅を中心とした中心部だけをコンパクトにするということではなく、松永や北

部や東部、それぞれの地域の生活拠点、そうした拠点をひとつのかたまりとして捉えて、それを自家用車利用ではない公共交通でどう結んでいくか、地域拠点を団子、公共交通を串として考え、団子を串で刺したような連続したまちづくりを目指す、ということになっております。

立地適性化計画は、市街化区域いわゆる都市部の計画ではありますが、市街化調整区域についても、それぞれ地域の核、生活の拠点がありますので、そういった地域の特性を活かしたまちづくりと公共交通をどう連動させていくかということが、今後の人口減少のまちづくりに非常に重要な部分になっております。都市の活力をどう維持していくかということにもなりますので、今年度中には基本方針を策定して、まちがどうあるべきか、具体的な施策については今後、検討を進めることになると思っております。

立地適性化計画に、この網形成計画をどのように関連づけるかについては、立地適性化計画が長いスパンの計画でありますので、それと連携した網形成計画にしなければならないと思っております。ただ、網形成計画は直近6年の計画ですので、そこは協調・連携しながら進めていくことになるかと考えています。公共交通は、将来を見据えながら当面やらなければならないことを進めるという部分もあります。

もうひとつのモビリティ・マネジメントにつきましては、本市でもいろいろと取り組んでおります。この計画の中でも、利用促進について取り組んでいかなければならないと思っております。実際に、車の利用が一番多く、一番車が便利なのはわかっております。ただ、車から公共交通へと考えるのは、やはり何を動機付けにするかということになってくるかと思えます。気持ちを変える仕組みというのは必要だと思っておりますので、そういったことも取り組んでいきたいと考えています。

部会長：ありがとうございました。他はいかがでしょう。よろしいですか。

それでは、今日のこの資料に基づいた内容につきまして、ご承認をお図りしたいと思います。議事の1番、福山地域の公共交通の現状・課題と、計画策定の方向性についてご承認頂ける方は挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

部会長：ありがとうございます。挙手多数と認めますので、事務局案通り承認することといたします。

計画策定は、今日の資料-5にありますような基本方針に基づいて、これから具体的な内容をつくっていくこととなります。そういう意味ではここからが勝負になるわけでございます。今後とも委員の皆さんのお力添えをいただけますよう、お願いしたいと思います。

先ほど、お話しさせていただきましたが、今回のアンケートは非常に市民の方が素直に答えてくださっていて、車利用が多いことが示されていますが、先ほども申しましたが、個人的には生活習慣病に陥ってしまっているのではないかという気持ちがあります。年を取って車が運転できなくなった時に困らないように、今から体質改善を是非とも試みる、そういった指針の計画になれば良いと思っております。

以上で本日予定しておりました協議は終了いたします。最後に次第の4番、その他ですが、委員の皆さんから何かございますでしょうか。よろしいですか。それでは意見もないようですので、以上をもちまして議長の役目を終わらせていただきたいと思います。委員の皆様におかれましては、円滑な議事運営にご協力いただきましてありが

とうございました。それでは進行を事務局に返します。

事務局：部会長，大変ありがとうございました。

以上をもちまして，第1回福山・笠岡地域公共交通活性化協議会福山地域部会を閉会いたします。委員の皆様には長時間にわたって熱心にご議論いただき，誠にありがとうございました。